みやこ町歴史民俗博物館

# 博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.183

令和4年2月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930－33－4666
FAX0930－33－4667

**博物館休館日カレンダー 2022年 2月**

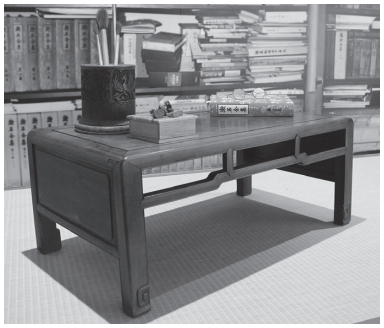
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

□ 休館日 ※情報はR4.1.19現在

◆博物館「おススメ」逸品レポート
この展示(&収蔵資料)

## ココが見どころ、ここがツボ!!

コロナであってもなくても博物館の魅力は収蔵資料が持つ多彩な価値と情報です。当館には町の豊かな歴史と文化が育んだ沢山の「逸品」資料があり、以下にその一部をご紹介いたします。



▲右下の写真と見比べるとこの文机が漱石愛用の文机にそっくりであることがわかります

**●資料名**
紫檀製文机(したんせいふづくえ) 1点
＊現品は小宮豊隆資料(館蔵資料)のつ
＊現品はみやこ町指定有形文化財(歴史資料)

**●データファイル**
・**法 量 等**：横755＊縦400＊高305(㎜)
・**制作年代**：明治末～大正初期(一九〇〇年前後)
・**ポイント**：漱石への傾倒ぶりが形に現れたものとしての典型
・**公開状況**：常設展示で公開中

▲愛用の文机と漱石　大正3(1914)年12月に撮影された漱石の書斎写真から

**●資料解説&メモ**

夏目漱石最愛の弟子として自他ともに認めていた小宮豊隆は、時に漱石をご神体として崇めるような姿勢をとることがあり、その様子は「漱石神社の神主のようで可笑しい」と他の弟子たちから揶揄されるほどでした。

そのことを窺わせるエピソードにこと欠かない小宮ですが、最も分かりやすい例としては、子どもたちに漱石にあやかった名をつけまくったという事実があります。参考までに列記すると…

・長男：書之助(夏目金之助から)
・次男：金吾(金之助50歳に因む)
・三男：曠三(漱石から貰った揮毫「隨縁放曠」から一字をいただく)
・長女：三千代(小宮がモデルの漱石作品『三四郎』の後継作『それから』のヒロインの名)

といったところですが、漱石へのハマりぶりがよく表れています。そんな小宮の漱石への憧れが凝縮された「モノ」の代表ともいえるのが紹介の文机です。

プロ作家となって以降の漱石作品は全てこの机上から生まれており、生涯漱石を追い続けた小宮にとっては垂涎の品で、恐らくは漱石存命中に購入したものと思われます。

ただ、文机購入からほどなくして漱石は死去。小宮は弔句を捧げます。

**室に入れば紫檀の卓の寒さ哉**

◆講座・教室・催し物ガイド

## 2月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
2月5日(土) 9時30分～
【古文書講座】
2月11日(金) 10時～
【古典かな講座】
2月19日(土) 9時30分～
【みやこ学講座】
2月26日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

## 博物館で「楽習」始めませんか?

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか?詳しくは博物館へお問合せ下さい!

**★博物館友の会**
バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

**★文化遺産ボランティア(豊み隊!)養成講座**
町の宝を3つのアクション＝①ガイド(案内)②ガード(管理)③ワーク(調査)でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

▲活動時はお好みのメニューに参加できます
写真はガードで蔵持山登山道清掃の様子

## 12月の業務日誌から

12月23日(木)、育徳館中学校科学部の皆さんが博物館を舞台にクリスマス実験ショーを催しました。学校外で思いっきり科学したい!との願いに博物館が応えたものですが、驚きの連続で楽しいひと時でした。

▲小学生を招待して最高の科学パフォーマンスを披露しました

12月24日(金)から5日間、博物館を臨時休館して館内燻蒸作業を行いました。収蔵資料を虫やカビの害から守るため欠かせない作業で、毎年この時期に行いますが、作業は無事終了しました。

▲作業では館の奥深くに入り込む虫等を薬剤で除去します

# みやこの歴史発見伝 144

## みやこの猫ものがたり②

「猫」の足跡から探るみやこの歴史
―その２―

祝「猫の日」
2022年2月22日

歴史に残る「猫の日」を祝して

### ミレニアムな「猫の日」

２月22日は３つの２（ニャン）が並ぶことから、１９８７年に「猫の日」に制定されました。（ちなみにヨーロッパの「猫の日」は２月17日です。）特に今年（２０２２年）はさらに３つの「２」がプラスされる「ミレニアム」な猫の日であることから、「猫好き」な人々から特に注目を集めています。日本では古くから各時代に猫の記録がみられますが、特に「枕草子」などの古典文学では他の動物にはない独特のキャラクターとしてその存在感を示しています。今月は「歴史に残る猫の日」を記念して、「国内最古の猫の記録」の舞台となったゆかりの町について、みやこ町を中心に詳しくご紹介します。

### 「国内最古の猫の記録」と京都郡

今から１２００年前の弘仁13年（８２２）、薬師寺の僧「景戒」によって「日本国現報善悪霊異記」（通称：日本霊異記）という「国内最古の説話集」がまとめられました。この説話集は上・中・下巻の３巻（１１６話）で構成され、登場人物も皇族から一般の人々に及ぶなど当時の日常生活や習慣などが詳しく描写されています。

この上巻、第30話に次のような物語が記されています。

慶雲２年（７０５）９月15日、豊前国宮子郡（京都郡）の役所で次官を勤めていた「膳臣廣国」という人物が急死し、冥界をさまよっていたところ、先に亡くなった父と再会します。父親は生前、自らが犯した悪行により食事を止められる等、様々な報いを受けていました。空腹に耐えかねた父は大蛇、犬に姿を変えて生前の廣国の家を訪れますが、ことごとく追い出されてしまいます。３度目に猫に姿を変えて訪ねてみたところ、家の中に入ることに成功し、空腹を満たしたことを告げられます。廣国はこの不思議な「臨死体験」の三日後に生き返り、冥界で父と再会した内容と併せて「悪行を重ねると必ず報いを受ける」という強いメッセージを世間に広め、自らの戒めとしたと伝えられています。

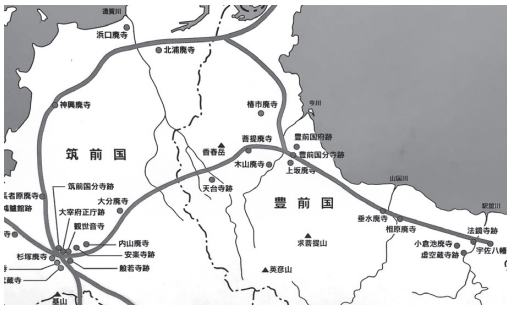
実はこの物語、日本の歴史上、初めて「猫」が登場する文献として「猫の歴史」を研究する上で欠かすことのできない重要な資料に位置付けられています。また町名「みやこ」の由来を研究する上でとても貴重な資料としても注目されています。

猫に化けた廣国の父（イメージ）

### 「マウスハンター」から「ペット」へ

主人公の「膳臣廣国」という人物は、その名が示すように「天皇の料理番」として「食膳」を司る氏族で、食材の貢納などに従事するため全国各地に配属されたことが伺えます。「膳」という字を「かしわで」と読むのは、土器などの食器の代わりに食物を「柏の葉」の上に盛り付けたことや、当時の宴席で料理を催促する際に「柏手を打った」ことに由来するとみられています。

またこの説話にみられる奈良時代は、外国から猫を輸入した記録もみられるなど、猫が単に「ネズミを駆除する動物」から「ペット」として珍重されるようになった「変革期」でもあり、「日本の猫の歴史」の中で最も重要な時期の猫が描写されたこの説話は、日本における猫と人との共存の歴史を知る上でも大変興味深い資料であることが分かります。




九州北部にみられる奈良時代の主要遺跡分布地図
（みやこ・大宰府・宇佐地域に集中していることが確認できます）

### 説話の舞台は当時の「みやこ」？

さらに日本霊異記に所収されている説話の舞台になった地域も、現在の熊本県から千葉県に及ぶなど、当時としてはかなり広範囲にわたる地域がその対象であったことが分かります。特に九州では、その統括拠点であった大宰府をはじめ、現在の佐賀、長崎、熊本県内にみられる特定地域の地名を確認することができ、東九州では、京都郡と宇佐市（大分県）のみに限られます。これらの地域はいずれも当時の政治・文化的中心地及び軍事的防衛拠点として重要視された地域とみられています。またこの当時、中国、朝鮮半島などの軍事的脅威に対して瀬戸内沿岸及び九州の主要地域に御所ヶ谷神籠石（みやこ町勝山・犀川から行橋市にかけて築造された山城跡）に代表される「古代山城」が築かれます。今回改めて詳しく調査したところ、この古代山城が位置する場所と説話の舞台となった地域が見事に合致するという非常に興味深い傾向を確認することができました。これまで「天皇の陵墓に匹敵する古墳」や「国内では２例しか出土していない『古代のダム』の木栓」など考古学による発掘調査等の結果から、当時この町が政治・文化の重要拠点であった可能性が高いことをご紹介しました。

今回の調査結果から、「日本最古の猫の記録」を通して「みやこ町の町名の由来」だけではなく、約１３００年前、みやこ町を中心としたこの地域が、当時の九州における政治・軍事的拠点として私たちの想像以上に重要視された文字通りの「みやこ」であったことを「文献資料」でも裏付けられることを証明することができました。

（井上信隆）